

神奈川県スポーツ振興指針  
「アクティブかながわ・スポーツビジョン」  
平成25年度取組み状況の評価

## 目次

神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」の概要	1
-------------------------------------	---

神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」の 平成25年度取組み状況の評価	4
---	---

# 神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」 の概要

本県のスポーツ振興については、神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」（以下「ビジョン」という。）に基づき進めている。

## 1 ビジョンの策定及び改定の趣旨

このビジョンは、県庁内の各部局や、県内における様々な関係機関等の連携体制を強化し、スポーツの振興を図るために、平成16年に策定した。

その後、平成23年8月に「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人の権利」とあるという、いわゆる「スポーツ権」を明示したスポーツ基本法が施行されたことを踏まえて、同法第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」として、平成23年12月に全面改定を行い、現在に至っている。

## 2 ビジョンの位置づけと目標年度

これからの神奈川県としてのスポーツ振興のめざす姿や策定（平成16年）から概ね10年後の平成27年度を目標年度とした取組みを示したものであり、県の総合計画である「かながわランドデザイン」に示している目標や具体的な取組み等を補完するものとして位置づけている。

## 3 基本理念

「スポーツのあるまち・くらしづくり」

県民の誰もが、それぞれの興味、目的、体力や年齢、技能などに応じて、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでもスポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現をめざす。

## 4 ビジョンの構成と施策

県民に直接、運動やスポーツの機会などを提供するための「生涯を通じたスポーツ活動の推進（アクションプログラム）」と、側面的に運動やスポーツ活動の環境の整備・充実を図るための「スポーツ活動を広げる環境づくりの推進（サポートプログラム）」の2つの柱と7つの施策で構成し、施策ごとに「主な取組み」と「重点的に取り組む事業」を掲げている。

### ア 生涯を通じたスポーツ活動の推進（アクションプログラム）

ライフステージに応じて「子どもの遊び・運動の充実」「児童・青年の体育、スポーツ、健康教育の充実」「成人の運動・スポーツの推進」「高齢者の運動・スポーツの推進」の4つの施策により展開。

### イ スポーツ活動を広げる環境づくりの推進（サポートプログラム）

「運動・スポーツを支えるしくみの整備」「トップアスリートの育成・強化」「運動・スポーツをする場の充実」の3つの施策により展開。

## 5 事業評価

施策ごとの目標・指標を設定し、年度ごとに取組み状況の評価を行っている。また、目標年度としている平成27年度には、県民の体力・スポーツに関する調査も活用し、総合的な評価を行う予定である。

スポーツ活動を広げる環境づくりの推進（サポートプログラム）

運動・スポーツを支えるしくみの整備

スポーツとの様々なかかわり方の拡充

広域スポーツセンター機能の充実によるスポーツ活動の支援

スポーツ関係（統括）団体との連携強化

障害者スポーツの推進

障害者スポーツ教室など、障害の有無にかかわらず、誰もが楽しめるスポーツ交流等の充実・促進

障害者スポーツ関係団体との連携・協働の推進

トップアスリートの育成・強化

競技力向上に向けたトップアスリートの育成・支援

国民体育大会へのコーチ、トレーナー等を派遣するスタッフ制度の支援

全国レベルで活躍するトップアスリートの育成・強化

地域スポーツとの連携の推進

かながわアスリートネットワークのメンバーの活動機会の拡大

地域スポーツとトップアスリートの連携推進の検討

運動・スポーツをする場の充実

県立学校等の体育施設利用の推進

県立学校の体育施設開放の実施

大学等のスポーツ施設開放の推進

運動・スポーツ活動の場の充実

県立スポーツ施設の管理・運営方法の改善

公園及び遊休地等の整備やその支援

神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」  
の平成25年度取組み状況の評価

子どもの遊び・運動の充実（主に乳幼児期）

施策の方向性

最初のライフステージに当たる乳幼児の頃から、体を動かすことによって得られる爽快感や楽しさに触れること、基本的な動作の習得などによる充実感や達成感を得ることにより、健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度を身につけ、好んで体を動かすことや運動・スポーツを実践するようになることをめざします。

また、友達との遊びを通して人とのかかわりを学び、人間関係の希薄化や自殺問題等の社会問題の解消につながることをめざします。

施策の考え方

乳幼児期の遊びや運動の体験は、「こころ」と「からだ」の健全な発達を促し、生涯を通じて豊かなスポーツライフを築くための基盤となります。

この「子どもの遊び・運動の充実」では、子どもたちが安心してのびのびと遊ぶことができる場や、運動・スポーツに接する機会の充実を図るとともに、幼稚園や保育所等での運動指導の充実に向けた取組みを推進します。

また、家庭及び地域が連携し、子どもたちが生涯を通じて主体的に運動・スポーツに親しむことができるよう、保護者と一緒に運動・スポーツに親しむ機会の提供や地域スポーツクラブとの連携などに取り組みます。

**目 標 1**：幼稚園や保育所等での外遊びや運動をする機会を提供します。

**達成度の指標**：子どもの外遊びや運動を奨励する教室などの機会や指導者を対象とした研修講座の実施状況（実施後のアンケート等）

**達成度**：県内の冒険遊び場の情報を収集し、31箇所をホームページで紹介しました。また、指導者を対象とした研修講座として、「幼稚園運動遊び研修講座」を実施し、事後アンケートの結果では、約97%の受講者が今後の運動遊びの場面で活かせる内容として捉えていました。

**目 標 2**：保護者と一緒に楽しむ遊び・運動を奨励します。

**達成度の指標**：親子ふれあい体操（リーフレット）を活用した3033運動の普及・啓発活動の実施状況（配布数等）

**達成度**：県内全市町村にリーフレットを送付し、3歳児健診時での配布を依頼しました。（計85,500部）

### 主な取組み1 子どもの遊び、運動・スポーツの推進

**実績概要** 『子どもの外遊び、運動・スポーツの奨励』では、ふれあいの村におけるふれあい体験活動を実施、『子どものための運動遊び等の研修講座の充実』では、幼稚園運動遊び研修講座や保育士を対象とした運動遊びを含む研修講座を開催。

### 主な取組み2 保護者と一緒に楽しむ運動・スポーツの推進

**実績概要** 『保護者と一緒に楽しむ運動・スポーツの普及・啓発』では、親子ふれあい体操リーフレットの配布、ファミリー・コミュニケーション・ウォークの開催、『みんなが楽しめるスポーツイベントの開催や教室などの機会の提供』では、県民スポーツ週間、スポーツコミュニケーションデーの開催やレクリエーション指導者派遣事業を実施。

**その他** ・子どもの健康・体力づくり推進計画である「子どもJoy!Joy!プラン」に関する  
**関係する** による「健康・体力づくり推進フォーラム」を開催。  
**取組みの** ・県内各地の様々な催しなどにおける3033運動キャンペーンイベント  
**実績概要** を実施。

### 評 価

子どもの遊び、運動・スポーツの推進については、ふれあい体験活動を97事業で実施しました。県内の冒険遊び場の情報収集・提供についても、8市1町31箇所の情報提供をすることができ、今後も多くの情報提供ができるよう情報の収集をしていきます。また、運動遊びや体力づくりに関する内容を含む保育士等に関する研修事業においては、計7,126人の参加がありました。

保護者と一緒に楽しむ運動・スポーツの推進では、ファミリー・コミュニケーション・フェスティバルやファミリー・コミュニケーション・ウォーク、スポーツコミュニケーションデーに合計16,175人の参加がありました。また、平成24年度から取り組んでいるレクリエーション指導者派遣事業においては、子どもが参加する教室等28箇所に指導者を派遣、2,180人の参加者（高齢者含む）がありました。事後のアンケートによると、ほとんどの実施団体から「満足」「よかった」等の回答とともに、「祖父母とのつどいで園児の笑顔がたくさんみられた」などのコメントもありました。また、当日の参加者の様子について、約9割が満足しているとの回答を得ました。今後も教室等の充実を図っていきます。

## 児童・青年の体育、スポーツ、健康教育の充実（主に児童・青年期）

### 施策の方向性

児童・青年期は、運動・スポーツの楽しさを十分に味わうことや、学校での体育・健康に関する活動などにしっかりと取り組むこと、地域や家庭での遊びを通して楽しく体を動かすこと等が大切です。この世代では、乳幼児期からの連携を重視しつつ、生涯にわたる明るく豊かなスポーツライフの基礎を培い、様々な運動・スポーツを体験する中から、興味・関心を持たれたものを部活動などでより高めていくことにより、生涯にわたって楽しむことができるスポーツをつくることをめざします。

### 施策の考え方

「児童・青年の体育、スポーツ、健康教育の充実」では、乳幼児期からのつながりを重視するとともに、主体的に運動・スポーツを実践する意欲を育むことができるよう、家庭や地域と連携し、体育やスポーツ、健康教育の充実を図ります。

体を動かすことで得られる爽快感や楽しさを十分に味わわせることはもちろん、体育を中心とする教科の学習活動や、健康安全・体育的な学校行事等の充実、部活動の活性化に向けて、教員などが知識や技能を習得するための講習会・研修会の実施とともに専門指導者の派遣や関係団体との連携等に取り組みます。

また、地域スポーツクラブにおけるスポーツ活動の提供、学校と地域の連携による世代を越えた交流や、トップアスリートとの協働によるゴールデンエイジ（概ね9～12歳）を対象としたスポーツイベントなどの開催、家庭における運動・スポーツを通じたコミュニケーションの活性化等に取り組みます。

**目 標 1**：運動部活動入部率の向上を図ります。

**達成度の指標**：本県における中学校、高等学校の運動部活動入部率

**達成 度**：（公立）中学校運動部活動入部率は63.3%、（県立）高等学校は44.1%となっています。

**目 標 2**：子どもの体力・運動能力向上を図ります。

**達成度の指標**：本県における児童生徒の体力・運動能力

**達成 度**：体力・運動能力調査による新体力テストの記録を点数化した体力合計点の平均値では、男子が前年度に比べ11～17歳の年齢において上回っていました。

## 主な取組み1 運動部活動の活性化

**実績概要** 『運動部活動活性化事業の推進』については、「かながわ部活ドリームプラン21version」の中で、運動部活動実践校31校に32人の部活動エキスパート指導者を派遣、企業等連携協議会加盟団体と連携し、部活動に関わる講習会等を34回（参加生徒2,018人）開催。『運動部活動と地域スポーツクラブとの連携推進』については、地域の自治会や中学校等と連携した「地域で育む部活道」において地域と連携した取組みを実施。

## 主な取組み2 体育・健康教育の充実

**実績概要** 『子どもの健康・体力づくり推進計画の推進』では、児童生徒健康・体力づくり推進委員会を年2回開催し、各校の授業づくりに役立てた。『教員の指導力向上に向けた研修事業の開催』では、教員に対する基本研修講座や、指導力向上研修講座等を開催（計1,037人参加）。  
また、県立学校等に県保健福祉事務所の医師、保健師等を派遣し、喫煙防止教育を実施。（県立学校等27校）

**その他** ・県民スポーツ週間中央イベントとして、スポーツ体験教室、武道体験教室関係する室や、出張武道体験教室等を実施。  
**取組みの** ・22市町村における「放課後子ども教室」の設置（86教室）や、授業終了後の学童の遊び場・生活の場としての「放課後児童クラブ」への支援  
**実績概要** を実施。（329箇所）

## 評価

運動部活動の活性化については、実践校に部活動エキスパート指導者を派遣したり、県民スポーツ週間に合わせて、県立高等学校で「かながわ部活の日」を設定する等、部活動の活性化に取り組んできました。運動部活動の入部率は、中学校では63.3%と昨年度と変化はありませんが、高校生においては44.1%（+0.5ポイント）と昨年よりやや増加しました。

ジュニア競技に対する支援としては、県体育協会や各競技団体との連携により、スポーツ少年団の活性化や後援等の間接的な支援を図っています。また、ゴールデンエイジを含むジュニア世代を対象とする正しい技術や知識の習得を目的としたスポーツクリニックを、総合型地域スポーツクラブ及び県体育協会加盟競技団体と連携し、10事業実施しました。

体育・健康教育の充実については、教員同士の情報共有の場として児童・生徒健康体力づくり推進委員会を年2回開催するとともに健康・体力づくり推進フォーラムを開催しました。また、喫煙防止教育では、児童、生徒、学生に喫煙防止リーフレット（約13万部）の配布や、県立高等学校等に医師や保健師を派遣し、喫煙防止教育の充実を図りました。

県民スポーツ週間では、「スポーツ体験教室」を11種目17教室実施しました。実施後のアンケートでは「本物の選手に会えてうれしかった」などの声があり、内容の充実を図ることができました。



## 成人の運動・スポーツの推進（主に成人期）

### 施策の方向性

運動・スポーツをなかなか行うことができない成人期においても、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも、それぞれの興味・目的や体力、技術等に応じて、運動・スポーツに親しめることをめざします。

### 施策の考え方

仕事や子育てなどが生活の中心となる人も多く、運動・スポーツの実施率が低いライフステージが対象となる「成人の運動・スポーツの推進」では、日頃忙しくて時間がない、機会がないという理由で運動・スポーツを行っていない人が多いことに着目し、そういった方々にも運動・スポーツを行っていただけるよう、3033運動の普及・啓発活動の充実や、県民スポーツ週間をはじめとする様々なスポーツイベントの開催・支援、きっかけづくりとなるような運動・スポーツに関する各種情報の提供等に取り組みます。

また、少子化が進み、遊びの相手が保護者である子どもの比率が高くなっている中、子どもと一緒に楽しむ外遊びや運動・スポーツに親しむ機会の拡大などに取り組みます。

**目 標 1**：3033運動の普及・啓発を図ります。

**達成度の指標**：3033運動講習会などの実施状況や実施団体への事後調査等

**達 成 度**：3033運動講習会を19会場で実施し、合計927人の参加がありました。また、キャンペーンイベントを全15回実施し、合計38,486人の参加がありました。

**目 標 2**：「県民スポーツ週間」などのみんなが楽しめる運動・スポーツの機会の拡大を図ります。

**達成度の指標**：県民スポーツ週間やスポーツコミュニケーションデーなどへの参加者数等

**達 成 度**：「県民スポーツ週間」の中央イベントに合計6,058人の参加を得ました。全県的な周知活動の結果、関連事業も含めると総計で298,567人の参加がありました。また、スポーツコミュニケーションデーを22回開催し、合計7,122人の参加がありました。

### 主な取組み1 3033（サマルササ）運動の推進

**実績概要** 『3033運動普及・啓発活動の推進』では、全15回実施のキャンペーンイベントにおいて、3033運動チェック&実践ガイドなどの配布や簡易な体力測定を実施。『くらしの中で手軽にできる運動実践の奨励』では、神奈川県立高等学校PTA連合会県大会等の会議における普及・啓発活動のほか、健康寿命日本一に向けた運動の紹介や、「通勤ウォーク・エクササイズのスズメ」のホームページ掲載等による広報活動を展開。

### 主な取組み2 誰もが楽しめる運動・スポーツの機会の提供

**実績概要** 『県民スポーツ週間の実施』では、中央イベントとして各種スポーツ体験教室や武道体験教室等のほか、市町村、スポーツ関係団体、大学等との連携により様々な関連事業を実施。『市町村やNPOなどとの協働による様々なスポーツ活動機会の提供』では、県民スポーツ週間関連事業に加え、NPOとの協働事業としてファミリー・コミュニケーション・ウォークを開催。

- その他** ・生涯学習情報システム「PLANETかながわ」における大学の施設開放関係する情報の提供。
- 取組みの実績概要** ・「かながわ健康プラン21推進会議」構成団体を通じた生活習慣改善の普及啓発。
- ・県総合体育大会の理念を継承する競技団体主催大会への支援。
  - ・アウトドア・マリンスポーツフェアの民間実行委員会による単独開催。

### 評価

3033運動の推進については、「日常生活の運動化」の実践を促すために、新たに働き盛りの年代をターゲットとし、通勤時間帯を活用した運動実践の奨励として「通勤ウォーク・エクササイズのスズメ」をホームページに掲載しました。試行的に行なった県職員のアンケート結果からでは、8割以上の方が興味を持っており、約5割の方が「始めようと思う」と回答をしていました。また、3033運動で「めざせ！健康寿命日本一!!」として、「階段のぼり」「大また歩き」「スキマストレッチ」の3つの運動を紹介し、より多くの人に実践してもらえるよう取り組みました。

誰もが楽しめる運動・スポーツの機会の提供では、県民スポーツ週間をはじめとした様々なスポーツイベントを開催しました。県民スポーツ週間では、広報を拡大したことで参加者が増えたイベントや事業が多くあり、全県的に定着しつつあると考えます。

また、スポーツボランティアの活用（計51人）や総合型地域スポーツクラブ等人材育成事業（全7回292人参加）により多くの方がスポーツにかかわることができるような取組みを進めました。新たに実施した「スポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業」では、大学と連携し、スポーツ教室や体力測定などを開催し、スポーツの機会の提供を拡大することができました。

## 高齢者の運動・スポーツの推進（主に高齢期）

### 施策の方向性

高齢者が運動・スポーツを通して、健康・体力づくりに取り組むことに加え、仲間づくり、生きがいづくりをすることができ、幸福で豊かな生活を実現し、元気にいきいきとくらすことをめざします。

### 施策の考え方

高齢化が進む現代において、仕事や子育てを終え、時間にもゆとりのできる高齢期というライフステージを、いかにいきいきと過ごすことができるかどうかはとても重要な課題です。

この「高齢者の運動・スポーツの推進」では、幸福で豊かな生活を実現するため、健康の保持・増進、生きがいや仲間を得られるようレクリエーションやいわゆるニュースポーツをはじめとした手軽に行うことができるスポーツ活動の機会の提供、日頃体を動かすことがほとんどない方も容易に取り組むことができるようなプログラムの開発や普及・啓発に取り組みます。

また、運動・スポーツを通して高齢者同士の交流はもちろん、乳幼児などとの世代を越えた交流等、様々なコミュニティの活性化に取り組みます。

**目 標 1**：高齢者向け3033運動プログラムを開発し、その普及・啓発による運動・スポーツの推進を図ります。

**達成度の指標**：プログラムの周知状況や協力団体への事後調査による活用状況等

**達成 度**：高齢者向け3033運動プログラム「かんたん元気運動プログラム」を増刷し（10,000部）、関係機関に配布しました。

**目 標 2**：レクリエーションなどへ的高齢者の参加促進を図ります。

**達成度の指標**：かながわスポーツ・レクリエーション大会などへ的高齢者の参加状況や、指導者派遣事業の実施状況等

**達成 度**：「かながわスポーツ・レクリエーション大会」を開催し、中央大会と出前イベントで合計3,830人の参加がありました。また、高齢者のスポーツ交流大会「かながわシニアスポーツフェスタ」を、16種目で開催、大会関係者385人を含め、2,084人の参加がありました。

## 主な取組み1 高齢者が容易に取り組める運動・スポーツの推進

**実績概要** 『高齢者向け運動プログラムの開発と活用促進』では、「かんたん元気運動プログラム」を活用した3033運動講習会を開催。『高齢者の健康・体力づくりや介護予防事業と連携した運動実践の奨励』では、県内各地域の老人クラブやサークルに介護予防・生きがい支援員を派遣し、健康体操の支援等を実施。

## 主な取組み2 レクリエーション等手軽に楽しめるスポーツの推進

**実績概要** 『レクリエーション等の普及・啓発と関係団体との連携強化』では、県レクリエーション協会との連携による、かながわスポーツ・レクリエーション大会への支援や、県レクリエーション協会加盟団体による県民スポーツ週間関連事業を実施。『指導者派遣事業の推進』では、レクリエーション指導者派遣事業を実施し、計48箇所延べ59人の指導者を派遣。

**その他関係する取組みの実施概要**

- ・高齢者が主体的に健康づくりを行うために、市町村や関係団体と連携した3033運動普及員養成講習会の開催。
- ・健康づくりに向けた地域の健康体操（ご当地体操）や介護予防ダンス「フレディ・エクササイズ」の普及。
- ・高齢者のスポーツ交流大会「かながわシニアスポーツフェスタ」の共催。
- ・県内スポーツ団体の主催するマスターズ大会実施状況の把握などの情報収集。
- ・全国健康福祉祭（ねんりんピック）こうち大会に13種目、99人の選手団を派遣。

## 評価

高齢者が容易に取り組める運動・スポーツの推進については、日頃体を動かすことがほとんどない方から、体力に自信のある方まで、それぞれのレベルに応じて手軽に取り組むことができる「かんたん元気運動プログラム」のリーフレットを増刷しました。プログラムを活用した3033運動講習会を開催したほか、3033運動普及員が地域で自主的に開催する講習会での活用や、市町村の関係機関をはじめ各団体や希望される個人の方にも配布し、一層の普及を図りました。

レクリエーション等手軽に楽しめるスポーツの推進については、「かながわスポーツ・レクリエーション大会」への支援を行いました。また、高齢者のスポーツ交流大会として「かながわシニアスポーツフェスタ」を実施しました。

地域が主体となって高齢者の「居場所」と「出番」を確保する取組みとして新たに老人クラブ等に介護予防・生きがい支援員を派遣し、健康体操の指導等を支援しました。また、全国健康福祉祭（ねんりんピック）の2021年本県開催が決定し、今後は様々な準備を進めていく予定です。

## 運動・スポーツを支えるしくみの整備

### 施策の方向性

県民の多様な運動・スポーツへのニーズに対応するため、総合型地域スポーツクラブの育成・支援、スポーツ活動を支える指導者やコーディネーター、スポーツボランティア等人材の養成・充実に努めます。

また、県、市町村とスポーツ関係団体等との役割分担を踏まえ、各団体の自主的・自発的な活動の支援を図ります。そして、高い水準の競技スポーツと地域スポーツ、学校と地域等、組織の違いや領域の垣根を越えた連携・協働を推進します。

さらに、施設や人材等についての情報提供の充実とその利便性の向上を図ります。

障害者スポーツにおいても障害のある人が十分にスポーツ活動を行うことができるようしくみづくりや、障害の有無を超えた連携・協働の推進等をめざします。

### 施策の考え方

この「運動・スポーツを支えるしくみの整備」では、県民がいつでも、身近なところで、それぞれの興味・関心、適性、ライフステージ等に応じて、スポーツをする、みる、支える、と様々な運動・スポーツの活動に参画する機会を確保できる環境をつくるために、総合型地域スポーツクラブの育成・支援や、運動・スポーツの楽しさや効果等を教えてくれる指導者、様々な人とのネットワークを拡げるコーディネーターなどの人材の養成・充実、県立体育センターの広域スポーツセンターとしての機能充実等に取り組めます。

さらに、県や市町村、地域スポーツクラブ、学校、スポーツ関係団体、企業等による組織の違いを越えた連携や、様々な組織が一丸となった横断的な連携を強化し、スポーツ界の連携・協働の橋渡しやしくみづくりに取り組めます。

また、ノーマライゼーションの考え方のもと、障害の有無を超えた連携・協働を推進し、障害者スポーツを通じて、障害者の体力の増強、交流、余暇の活用を図るとともに、誰もが十分に運動・スポーツを楽しむことができるしくみづくりに取り組めます。

**目 標 1** : スポーツに関する情報提供や、スポーツを支える活動の機会の拡大を図ります。

**達成度の指標** : 総合型地域スポーツクラブの育成状況や、スポーツ情報へのアクセス数等

**達成度** : 総合型地域スポーツクラブは設立準備中を含め合計90クラブとなり、新たに2つの市町にもつくられました。県立体育センターホームページでは、スポーツイベント・講座、スポーツ施設、スポーツクラブ・サークル、指導者の情報等を提供しました。(情報提供数4,860件)

**目 標 2** : 障害の有無にかかわらず、誰もが一緒に参加できる運動・スポーツの機会を提供します。

**達成度の指標** : 障害の有無にかかわらず、参加できるイベントなどの参加者数等

**達成度** : 県障害者スポーツ大会を4種目にわたって実施し、計1,208人の参加がありました。

### 主な取り組み1 スポーツとの様々なかかわり方の拡充

**実績概要** 『広域スポーツセンター機能の充実によるスポーツ活動の支援』では、総合型地域スポーツクラブの育成・支援として、指導者等派遣事業、地域巡回指導・相談等を実施。『スポーツ関係（統括）団体との連携強化』では、県体育協会を通じて各スポーツ団体の競技力向上対策事業への支援、スポーツイベント等におけるかながわアスリートネットワークとの連携等を実施。

### 主な取り組み2 障害者スポーツの推進

**実績概要** 『障害者スポーツ教室など、障害の有無にかかわらず、誰もが楽しめるスポーツ交流等の充実・促進』では、ライトセンターにて主に視覚障害者を対象としたスポーツ教室等の開催や、スポーツの支援として、全国障害者スポーツ大会「スポーツ祭東京2013」に選手団を派遣。『障害者スポーツ関係団体との連携・協働の推進』では、県障害者スポーツ指導者協議会や各障害者スポーツ団体等と連携した県障害者スポーツ大会を実施。

- その他** ・スポーツリーダーバンクの活用。
- 関係する取り組みの** ・体育センターにおける体育・スポーツ等の調査・研究の実施及び成果の公表と事業への反映。
- 実施概要** ・県障害者スポーツ大会や県障害者スポーツ教室における障害者スポーツボランティアとの連携。

### 評価

スポーツとの様々なかかわり方の拡充については、県立体育センターの広域スポーツセンター機能として、総合型地域スポーツクラブへの地域巡回指導（87回）のほか、相談（95件）や、総合型地域スポーツクラブが育成されていない市町への巡回により、育成市町村数は、目標の25市町村となりました。人材育成事業として、クラブ等に必要なマネジメント研修や指導者のスキルアップ研修（7講座、292人受講）、を実施しました。スキルアップ研修においては、「質の高い講習を受けることができ、とても勉強になった」などの感想が多く、受講者からは、高い評価をいただきました。今後も指導者の充実につながる内容を検討します。また、広域スポーツセンター運営委員会では、学校と連携したクラブ運営の育成に向けた検討を行いました。（2回開催）

スポーツ情報の提供については、生涯学習情報システム「PLANETかながわ」との連携によるホームページ掲載や、SNS（Twitter）、メールマガジン等様々な媒体を活用し広報活動の充実を図りました。

障害者スポーツの推進については、県障害者スポーツ大会において約300人のスポーツボランティアを活用し、スポーツを「する」だけでなく、「みる」「支える」など、様々なスポーツへのかかわり方の実現にも取り組みました。

## トップアスリートの育成・強化

### 施策の方向性

トップアスリートの活躍をより多く引き出せるよう、ジュニア期からの一貫指導体制の推進による育成支援や、地域スポーツの場においても活躍できる体制の検討等、トップアスリートの活動支援を通し、神奈川の競技水準の向上や、スポーツ界の連携・協働の推進等をめざします。

### 施策の考え方

競技スポーツにおけるトップアスリートの活躍は、アスリート自身の自己実現であるだけでなく、県民に夢と希望を与え、スポーツの持つ魅力や醍醐味を伝えるとともに、県内のスポーツ愛好家の競技意欲を高める等、多様な意義や効果を有しています。

この「トップアスリートの育成・強化」では、県民の目標となるスポーツ選手の育成・強化に取り組み、神奈川の競技水準の向上を図るとともに、高い水準の競技スポーツと地域スポーツとの連携などについて検討し、スポーツ界の連携・協働方策の確立などをめざします。学校の運動部活動や地域スポーツクラブ等の身近なものから、各競技団体が行う選手強化などの競技力向上対策事業まで、様々な活動支援やしきみづくりの検討に取り組みます。

**目 標 1**：本県選手の全国優勝、国際大会入賞を高水準で維持していきます。

**達成度の指標**：神奈川県スポーツ優秀選手表彰の被表彰者数等

**達成 度**：スポーツ優秀選手延べ132人・29団体を表彰しました。また、神奈川県文化賞・スポーツ賞においては、スポーツ賞で4人・2団体を表彰しました。

**目 標 2**：国民体育大会において高水準の成績（天皇杯入賞を目安）を維持します。

**達成度の指標**：国民体育大会における天皇杯の成績

**達成 度**：第68回国民体育大会、第69回国民体育大会冬季大会へのコーチ、トレーナー78人の派遣に対し支援を行いました。国民体育大会における天皇杯の成績は6位で8年連続の入賞となっています。

### 主な取組み1 競技力向上に向けたトップアスリートの育成・支援

**実績概要** 『国民体育大会へのコーチ・トレーナー等を派遣するスタッフ制度の支援』では、県体育協会と連携して、コーチやトレーナーの派遣を支援。『全国レベルで活躍するトップアスリートの育成・強化』では、ゴールデンエイジ等を対象に総合型地域スポーツクラブと連携したスポーツクリニックの開催や、競技団体が行う競技力向上対策事業を支援。

### 主な取組み2 地域スポーツとの連携の推進

**実績概要** 『かながわアスリートネットワークのメンバーの活動機会の拡大』では、県民スポーツ週間において、延べ23人のかながわアスリートネットワークのメンバーを講師に教室等を開催。『地域スポーツとトップアスリートの連携推進の検討』では、競技団体等が行う強化練習会・強化合宿等でトップアスリートの指導を受けられるよう県体育協会を通じて支援を実施。

**その他** ・「県体育功労者」41人・6団体を表彰。  
**関係する取組みの実績概要** ・「神奈川文化賞・スポーツ賞」贈呈式を実施。文化賞4人、文化賞未来賞2人、スポーツ賞4人・2団体、県民約1,800人が参加。  
・スポーツイベントでの医療救護活動、スポーツ医学的知識の啓発及び普及などを行っている県医師会の事業に対しての補助。

### 評価

競技力向上に向けたトップアスリートの育成・支援については、スポーツ優秀選手延べ132人・29団体を表彰しました。

各競技団体が行う競技力向上対策事業への支援としては、県立体育センターにおけるアスリート育成支援コース（17回、338人参加）において「高校生競技者の体格および基礎体力に関する研究」に基づく参加団体へのアドバイスの他、アスリートサポート講座（3回、195人参加）等の開催により、競技団体や個人に対して医科学的支援を行いました。また、学校の運動部活動に対する支援については、優秀選手強化事業、普及育成事業として、中体連、高体連への補助を行いました。国民体育大会については、関東ブロック大会、本大会、冬季大会合計で本部役員・選手・監督1,512人を派遣しました。

地域スポーツとの連携の推進については、県民スポーツ週間などにおける「かながわアスリートネットワーク」との連携事業などに取り組んでおり、今後も競技スポーツと地域スポーツの連携による人材の好循環等を検討していきます。

また、新たに県と大学との連携による「スポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業」を実施し、地域の競技力向上に向けてスポーツ団体等を対象に体力測定や技術的なアドバイス等を行いました。



## 運動・スポーツをする場の充実

### 施策の方向性

県民の誰もが身近な場所で、いつでも気軽に外遊びや運動・スポーツを実践することができるよう、施設の運営方法の改善や、県立学校体育施設の有効活用の促進、大学などのスポーツ施設の活用等、多様なスポーツ活動の場の創出をめざします。

また、施設のユニバーサルデザイン化など、高齢者や障害者等に配慮し、誰もが使いやすい施設整備の検討を進めます。

### 施策の考え方

県民の運動・スポーツに対するニーズが多様化する中で、それぞれの興味・目的や体力、技術等にあった施設を、身近なところで、いつでも気軽に利用できる環境が望まれます。

この「運動・スポーツをする場の充実」では、民間活力の活用などによる施設の運営方法の改善や、地域の身近な県立学校体育施設の有効活用の促進、大学などのスポーツ施設の活用等、運動・スポーツをする多様な場づくりに取り組みます。

また、施設のユニバーサルデザイン化など的高齢者や障害者等に配慮した施設整備、子どもが安心してのびのびと遊べる公園や、多くの人が楽しんでいるウォーキングの場にもなり得る遊歩道等の整備を検討します。

**目 標 1**：県立学校体育施設開放の推進を図ります。

**達成度の指標**：県立学校体育施設開放の利用件数等

**達成 度**：154校の県立学校で体育施設の開放を実施し、合計で16,038件、274,927人の利用がありました。

**目 標 2**：大学などのスポーツ施設の活用推進や、県立スポーツ施設の管理・運営方法の改善等を図ります。

**達成度の指標**：大学などのスポーツ施設の活用に向けた情報提供などの取り組み状況等

**達成 度**：大学の協力を得て、開放を実施している大学のスポーツ施設情報を県ホームページに掲載するとともに、大学のホームページへのリンクによる情報の提供を行いました。

### 主な取り組み1 県立学校等の体育施設利用の推進

**実績概要** 『県立学校の体育施設開放の実施』では、154校の県立学校で体育施設の開放を実施。利用者の利便性向上のためスケジュール公表などについて雛形等を示し、各県立学校にホームページへの掲載を依頼。『大学等のスポーツ施設開放の推進』では、開放を実施している大学のスポーツ施設情報を県ホームページに掲載したほか、企業等連携協議会の加盟団体（48団体）と連携し、部活動に係る講習会等を全33回開催。

### 主な取り組み2 運動・スポーツ活動の場の充実

**実績概要** 『県立スポーツ施設の管理・運営方法の改善』では、「公共施設利用予約システム」の円滑な運用と利活用の促進を図るためのチラシやポスターの掲出による広報活動を実施。『公園及び遊休地等の整備やその支援』では、県立都市公園においてスポーツや健康づくりに資する施設を整備、県営水道の配水池の上部敷地を利用したスポーツ活動の場の提供。

**その他** ・県内の自然公園における登山道等の施設整備事業の実施。  
**関係する** ・歩道における段差の解消や幅広歩道の整備を実施。  
**取り組みの** ・体育センター、スポーツ会館における開所日の拡大（条例による規定との比較）  
**実績概要**

### 評価

県立学校等の体育施設利用の推進については、県立学校154校でスポーツ施設の開放を実施し、合計16,038件、274,927人の利用がありました。工事の関係で開放を制限した学校などもあり昨年度と比較し利用人数は減少していますが、引き続き地域住民への情報提供として各学校のホームページ等による広報に取り組んでいます。

大学のスポーツ施設については、開放の状況を県のホームページに掲載するとともに、生涯学習情報システム「PLANETかながわ」においても情報提供を行いました。また、県と協定を締結している大学のうち、1大学について県民スポーツ週間における施設開放を実施していましたが、平成25年度から、通常の一般開放（有料）が開始されました。今後も開放未実施大学の開放促進に向けた検討を進めるとともに、大学との協定に基づく働きかけを行っていきます。企業のスポーツ施設についても、市町村と協力しながら、開放に関する情報収集等を進め、運動・スポーツをする場の確保につなげていく必要があります。

運動・スポーツ活動の場の充実については、県立体育センターにおいて休日の翌日を開所し、条例との比較で10日の開所日増となっています。その他の県立スポーツ施設においても指定管理者の提案による年末年始や施設点検日を除いた無休化等を実施しています。

